

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会/陽光保育園/板橋第十小学校学童クラブ 発行日 2007年3月30日
 編集「明日にむかって」編集委員会 住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

52号

教育とは、子どもの未来に責任をもつことです。そのためには、教育者が未来を見通す力を身につけることが必要だといわれています。未来を見通す力を身につけるためには、①こんな取り組みをしたら子どもは変わるだろうと仮説を立てて取り組む(科学に依拠する)、②わからない課題に直面したら過去に学ぶ(歴史に学ぶ)、③職場集団でおおいに討論する(仲間に依拠する)、の三つの課題を自分に課すことがとても重要であるという話を研修で聞きました。保育園はわずか6年間ですが、人格形成に大きな役割を果たします。子どもの未来に責任をもつということでは保育者も教育者と同じです。私たち大人はみな、子どもたちの光り輝く存在を受けとめてくれる社会をつくらなければなりません。(T・R)

子どもが輝くとき



冬の行事編

保育園や学童クラブのさまざまな取り組み、活動のなかで、子どもたちが見せてくれる生き生きとした姿を紹介します。

●お店屋さんごっこ(12月14日・15日)

「お店屋さんごっこ」は4歳児クラスと5歳児クラスが協力して創る取り組みです。お客さんになる小さい子を、4、5歳の子がお世話する姿が微笑ましいです。「冬のつどい」は、寒さが増していく時期を元気に過ごせるよう、みんなでホールに集います。職員も練習した出し物を披露して、子どもたちは大喜びで見られます。



上：冬のつどいに「雪だるま」が遊びにきてくれて、中：ゲームコーナーの「もぐらたたき」は大人気、下：「はじまり」の遊びをする劇場担当の4、5歳児たち

●新年のつどい(1月10日)

餅つきをして新しい年を祝います。恒例になった獅子舞は、小さい子は怖がって泣き出しますが、大きい子は囃んで欲しうて頭を突き出しています。



上右：獅子舞にみんなドキドキ 上左：保護者も参加しての餅つき 左：ホールでみんなで大合唱



●いわし焼き&節分(2月1日・2日)

節分は、春を呼び込むための行事ですが、この機会に自分の中の悪いものや世の中の悪いものを鬼に見立てて追い払います。前日には、鬼払いのいわしを焼き、散歩で集めた枝とわらで作った魔よけを各部屋の入口に飾り、豆を炒って準備をします。節分当日は「鬼はそとー!」と豆を投げつけ、みんな力を合わせて鬼を追い払います。



上右：「鬼はそとー!」上左：魔よけのわらも子どもたちが編みます 上左：園庭でいわしを焼き、みんなで食べました



●お別れ会(3月9日)

卒園する年長組とのお別れ会。どのクラスも卒園する子への贈り物を作り、出し物を披露します。1年間に成長した子どもたちの姿を見ることができ、催しでもあり、最後に卒園児が披露する「荒馬踊り」に、ほかの子どもたちはみんな憧れをもちます。



左：2歳児は劇「大きな木」 3歳児は劇「かにむかし」 下右：1歳児は手遊びを披露

●荒馬座ミニ公演(2月28日am)

卒園に向けて5歳児が取り組む「荒馬踊り」を子どもたちに見せてあげたいという思いから実現。ご近所の方や近隣の大谷口保育園の年長児さんも招待して、会場は「ラッセラー ラッセラー ラッセ ラッセ ラッセラー!」の掛け声が響き、大いに盛り上がりしました。



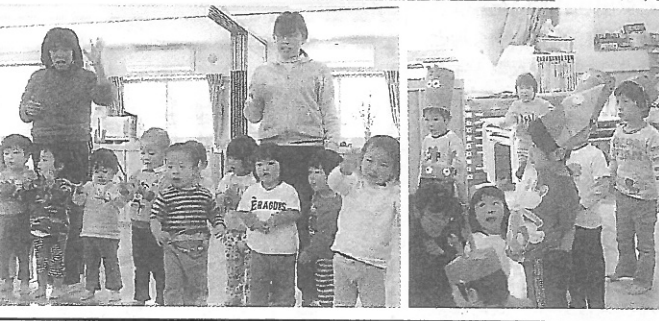
民族歌舞団荒馬座のミニ公演(下)と、座員から「荒馬踊り」を伝授してもらった5歳児たち



ごあんない
 ◆映画「日本国憲法」上映会
 日時 4月28日(土) 18時30分(開場18時)
 場所 陽光保育園ホール
 主催 大谷口九条の会
 資料代 300円
 ◆陽光保育園後援会 春の交流会
 日時 4月29日(日) 11時
 場所 平和公園(上板橋北口5分)
 *恒例のパーベキュー大会です。皆様お誘いあわせのうえぜひお越しください。
 ◆陽光保育園後援会 総会
 5月に予定しています。

●学童クラブの緑日(2月28日pm)

ヨーヨー釣りやボーリング遊びなど、「緑日」を企画し、学童クラブ以外の子どもたちに学童クラブに来てもらい、楽しんでもらう取り組みです。何をするかはグループごとに決め、景品作りでは、3年生が1年生に教えるなど大いに盛り上がり、当日を迎えました。保育園からも年長児が参加させてもらいました。



上：ヨーヨー釣り/下：ヨーヨー釣りならぬ「わたあめ釣り」。そのほかにもお楽しみ満載の緑日でした

親子でいっしょに遊ぼう

陽光保育園では、月に1回、在園以外のお子さんが、保育園の子どもたちといっしょに遊ぶ機会を設けています。保育園で子どもたちが楽しんでいる、リズム遊び、砂遊び、散歩など、月ごとに予定を組んで、地域の方に来ていただいています。ぜひ一度、保育園に遊びに来てください。参加費は無料です。

- 場所 陽光保育園
 - 時間 午前9時30分～11時
 - 対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者(発達に障害のあるお子さんも大歓迎です)
- *参加ご希望の方は事前にお電話ください。☎3956-1068

●2007年度年間予定●

| | | | |
|------------------|-----------------|------------------|----------------|
| 4月25日(水) 砂あそび | 5月16日(水) リズムあそび | 6月20日(水) さんぽ | 7月5日(木) セタのつどい |
| 8月22日(水) 水あそび | 9月19日(水) 砂あそび | 10月17日(水) リズムあそび | 11月21日(水) 焼いも |
| 12月19日(水) リズムあそび | 1月16日(水) 室内あそび | 2月20日(水) 室内あそび | 3月13日(水) さんぽ |

*お天気により変更する場合があります。

あそびにおいで

*0歳児は、赤ちゃん体操や日光浴など、室内でゆったり過ごします。
 *動きやすい服装で、遊びによっては着替えやタオルをご用意下さい。

子どものからだど心の危機

〜今、わたしたちができること

講師 正木健雄先生

転んでも手が出ない子。朝からあくびをする子。ちゅっとしたことでキレる子。「飽れれている」という言葉が流行したほど、今の子どもたちはからだも心も危機的状態にあると言われています。その子どもたちからど心の問題について、全国の仲間たちとデータを集め、研究し、警鐘を鳴らし、具体的な提案をしつづけてきた正木健雄先生をお招きしてお話をうかがいました。(地域共育講座は陽光保育園主催で毎年開催している学習会です)

近年、あらゆる方面から、「子どもの姿が変わった」「昔の子と比べて変わった」といった声が聞かれるようになりました。今回の共育講座で正木健雄先生は、25年間の調査データをもとに、子どもたちのからだのどが危機なのか、その危機に対して、今わたしたちができることは何なのかを話してくださいました。

低下しているのは運動能力

子どものからだどがマイナス方向に変化してきたのは、1960年ころからだそうです。文部省は体力向上を呼びかけたが、実は低下しているのは体力ではなく運動能力で、小学生の運動能力は低下する一方で、力はあるのだけれど運動する脳が育ってなく、運動する場面でのように力を出すのが分からない、つまり、運動能力の低下は脳に原因があるのだそうです。

20年遅れて、中国の子どもたちにも日本の子どもたちと同じ「おかしさ」が生じているようですが、脳にまで不調をきたし、自然に発達できない要因には、便利で快適な生活があるといえます。



正木健雄(まさき たけお)先生・日本体育大学名誉教授、日本子どもを守る会会長代行として活躍。子どもたちからど心の危機(芽ばえ社、「おかしさ」子どものからだ)「子どもの体力」(以上、大月書店)など著書多数。

物のように一日に二度以上体温が変わる子もいます。生後3週間のうちに寒さを体験しないと、体温を上げるのが難しい体になるといわれます。室温が25度に設定された病院や家庭の快適な環境が子どもたちの発達の機会を奪っていることとなります。

便利さや快適さを追いつめ求めるなかで生じる影の部分の問題を知らえながら、わたしたち大人は、子どもたちのためのよりよい環境をつくっていかねばならないと強く思いました。

すぐに「疲れた」と言う子どもたち

子どものからだど心の危機に対してわたしたちができることは、子どものからだの問題一つひとつに丁寧に取り組むことです。「周りにいる大人が気がついて取り組めば、必ず子どもは発達していく」と正木先生は言われました。

先生が子どもの体の調査を始めた25年前には、すぐ「疲れた」という子どもの姿はなかったそうです。それが今では、幼児から小・中・高校生と、どの年代でも目立つ姿になったのだそうです。

「疲れた」というのは、脳が覚醒していないからということがまず挙げられます。しかしそれだけではなく、「興奮」と「抑制」という脳の活動のバランスがとれないために、すぐキレてしまったり、落ち着きがなくソワソワしがちな子どもたちの姿もたくさん見られます。

そんな子どもたちの心とからだの問題に気づいたある幼稚園では、子どもたちがいきいきする遊びはないかと模索した末、「じゃれつき遊び」にたどりつきました。毎朝、登園した子どもたちと30分間、じゃれつきあい、転げまわって遊ぶのです。「じゃれつき遊び」は一時の間やっても、子どもたちは「疲れた」とは言いません。子どもたちがすぐ「疲れた」と言うのは、からだの疲れからではないことが、その実践

〜初笑いで幸せなひととき〜 陽光新春落語会

1月27日/陽光保育園ホール
主催: 陽光保育園後援会

2005年の陽光新春落語会に出演の柳家さん光さんが真打ちに昇進、柳家基語楼を襲名しての独演会。観客は子どもたちも入り交じっての老若男女74名。会場は笑いのうずにおおまれ、大いに盛り上がりました。お越しいただいた皆様ありがとうございます。チケット売り上げのうち、経費を差し引いた11,800円を、陽光保育園の建築資金に寄付させていただきました。



建設資金

◎寄付のご協力ありがとうございます。(06年12月4日〜07年3月15日)
今井礼子、埼玉章子、上野悦子、福住和代、石巻志保子、小川恵美子、横田和美、遠藤和男、徳永美和子、中島千鶴子、谷田部信而、高山恭子、川添登美子、市川ゆき、安田紗織、改田牧江、川上和生、川上小百合、緑ヶ丘保育園職員有志、陽光保育園父母の会、陽光保育園後援会(陽光新春落語会)、陽光会財政部財政活動

【社会福祉法人陽光会 建設財政連絡会からのご報告】

- 借入金返済計画
 - 土地購入のための借入金1440万円(年120万円×12回/2017年までに返済)
 - バザーを年2回実施、収益(目標140万)で返済
 - 園舎改築のための借入金4980万円(年262万円×19回/2024年までに返済)
 - 運営費(国)民改費管理分で返済
- 改築費の不足額6,423,383円の回収計画
 - 年60万円×10年計画の取り組みを考える
 - ・バザー収益のうち120万を超える部分を改築建設にまわす
 - ・個人寄付金を募る/・財政活動を続ける

◎寄付金と財政活動(物品販売の収益など)の合計は、おかげさまで1470万円余に達しています。目標まであと620万円余り。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
◎寄付のお願い 1口5000円(何口でもけっこうです)
下記口座に振り込みお願いいたします。
郵便振替口座 口座番号 00140-0-260468
口座名義 陽光保育園建設委員会
*寄付金控除の対象になります。領収書が必要な方はお書き添えください。



「パパがいい〜」って……
娘の麻陽は0歳から陽光保育園にお世話になっていました。ちゃんとしてくれるものかと最初は少し心配でしたが、日々逞しく元気に成長していくのが手に取るようにわかり、とても頼もしく感じました。振り返ると、0歳〜1歳ころ、身体が強いほうではなかったで、よく病気をしていました。2歳になってからは、病気を繰り返す回数も非常に少なくなりました。保育園の先生方と麻陽にはとても感謝しています。

麻陽が生まれてから、一緒にいる時には遊んだり、お風呂に入ったり、トイレへ行ったりなど、出来ることは率先してやってきました。必要以上にやっていた気もします。そのせいか(笑)、何をしても麻陽は「パパがいい〜」と言って私と一緒に遊んでくれました。麻陽は完全にパパの子で、私は完全に親バカです。ただ、少し前から、変化が出てきました。お風呂はママと一緒に、トイレは一人でチャレンジ……と私と一緒にすることが徐々に減ってきました。パパ、パパの赤ん坊が、少しずつ成長してきたんだなあと、嬉しい気持ちと、私としてはちょっと寂しい気持ちが入り混じっています。いったいいつまで「パパがいい〜」って言うてくれるのだろうと、ふと考えてしまいます。ともあれ、「パパがいい〜」って言うてくれなくなっても、精一杯親バカでやっていくのは変わらないと思います。また最近、話をするのが上手になり、得意そうに「あれってダメなんだよ」といった説明をしてくれたり、保育園での出来事を面白おかしく話してくれたりします。そんな話を聞いているととても幸せです。これからも一緒に楽しい話ができる家庭を守っていきたくて思っています。

それが、「パパがいい〜」って言うてもらえる「代わり」ということなので、ようが、やっぱり、私の親バカは一生おわりそうもありません。
(2歳児クラス・麻陽の父 沢田 智)

「じゃれつき遊び」で脳を活性化

「じゃれつき遊び」をしていると、子どもは強く興奮するけれど、その中でグッと自分を抑制する力も育っていき、脳の活動もバランスがとれるようになっていきます。「こうした活動は動物的ではあるけれど、今の子どもたちに合っている」そうです。このようにからだをたっぶり動かして遊びこむという経験を、たくさんの子どものためにさせてあげたいと思います。

正木先生は最後に、こう話されました。「子どもを中心に置いて、まわりの大人が子どもが変わった証を認め、証を伝えたい。大人が響き合っているのが元気があっていい。子どもが変わると、親が変わる。地域が変わる。社会が変わる。を合言葉にしましょう」と。わたしたち大人が手を取り合って、子どもたちが安心して自分を発散し、成長できる環境をつくっていきたくて思っています。
(保育士 山本江里子)

食足りて 平和の尊さを知る

緑川 禎 勇



濡れた手から滑り落ちて、土釜が割れた。研いだ米は、竈の灰の中に四散した。私はその米粒をひとつずつ拾った。わずかな米がさらに少なくなった。いじめにあっても泣いたことがないのに、涙が自然に零れた。たとえ重湯のようなものでも米が食べられたのに、土釜を割ってしまって母に申し訳ない(金物はほとんど供出されていた)。
小学校5年生の私は、腎臓病で寝たきりの父、製材工場で働く母と弟妹の5人で、福島県のお小さな町にいた。田舎とはいえ、敗戦1年前のこと、学校では校庭の半分を畑に加え、高学年が馬鈴薯などを作った。クラスごとに唐黍を担いで、町外れの火葬場までの路肩に穴を掘り、大豆を蒔いた。
帰宅すると、田野にセリや露や田螺を求めて、夕方暗くなるまで歩いた。食糧になるものを得るのが一番母を喜ばせた。一方、学校の成績は顧みられることはなかった。宿題を教える代償として、弟から大豆を数粒、そしてもう1粒、また1粒とせしめられたものだった。
そのおやつもなく翌年(1945年)4月、父が死に、8月に敗戦になると、食糧不足は一段と進化した。池の端に繁茂していた名も知らない大きな葉の草を食べて下痢を起こしたこともあった。
私が食した不味いものを二つ挙げてみる。
・糠漬け用の小糠に湯を入れて捏ね、団子にする。蒸す。バラバラになったものをもう一度強く握り固めてお焼きのようにする。七輪の上でそっと焼いて両面に焦げ目をつける。熱いうちに岩塩を沈めた瓶から上澄み液をとって浸けて食べる。
・季節になると、農家では甘藷の苗の植え付けをする。藁と竹で囲った苗床に芋を植えて苗が族生するのを待つ。苗を採ったあとのサツマイモは捨てるのが普通だが、それをもらってくる。栄養分が抜かれて繊維だけが残った、このイモを茹でて食べる。
戦争は多くの苦しみを与え、生きていく糧を奪う。父が死んだのも、戦時下だったからだと思う。「さだお、ほんの少しだけ」と、母の留守をみて私に梅干しの汁をねだった青筋れた父。治療は塩気を控えるだけだった。
今もなお、世界の戦争紛争地域では、飢餓に苦しむ人たちがいる。特に子どもが真っ先に犠牲になる。最も守られるべき子どもたちが。
(川越市在住/板橋退職教職員の会会員)